

項目名称	No. 43	橋梁長寿命化の方策の推進								
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組							
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」							
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進							
所管課	建設部 道路維持課									
現状と課題	市が管理する橋梁1,160橋について、橋梁長寿命化修繕計画策定事業に基づき、修繕計画を策定しており、この計画に基づき、優先度・緊急度の高い橋梁から、概ね10か年を目安に修繕工事を行っている。									
取組内容	1 橋梁長寿命化修繕計画策定事業の推進(点検の実施、修繕計画の策定) 2 橋梁修繕詳細設計の委託(優先度、緊急度の高い橋梁を対象とした修繕詳細設計業務委託) 3 橋梁修繕工事の実施(前年度の修繕詳細設計に基づいた修繕工事の実施)									
達成目標	計画に沿った修繕工事の実施									
効果	予防保全型の補修により、維持管理に係るトータルコストが縮減できる									
指標			現状	中間年度	最終年度					
橋梁長寿命化の推進率(修繕工事を実施した割合)			目標値	13%	42%	44%				
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)			
1	橋梁長寿命化修繕計画策定事業の推進	計画	→							
2	橋梁修繕詳細設計の委託	計画	→	→	→	→	→			
3	橋梁修繕工事の実施	計画	→							
4		計画								
5		計画								
備考										

各年度取組実績					
令和 4年度 (2022)	中間取組状況	1 橋梁の定期点検は上半期にほぼ全ての発注を行い、点検の結果も一部を除いて概ね把握できている。 2 橋梁修繕詳細設計は16橋のうち8橋を発注済である。 3 橋梁修繕工事については、足場の関係上渇水期(11月～5月)施工の案件以外は概ね発注済である。			
	最終取組状況	1 昨年度に引き続き215橋の2巡目点検を実施した。 2 16橋のうち9橋の修繕詳細設計を実施した。 3 6橋のうち2橋の修繕工事が完了し、残る4橋は次年度以降も継続して実施していく。 令和4年度末時点で修繕を要する橋梁は92橋あり、そのうち66橋の修繕が完了した。			
	達成状況評価	○	評価理由及び次年度の取組予定	橋梁点検については予定通り完了した。修繕設計及び工事については、予算の関係上、一部の橋梁を除いて事業を実施できた。 次年度以降の取組予定について、長寿命化修繕計画に基づき計画的に事業を進めていく。	
	△:準備、検討 ○:一部実施 ◎:実施完了 ー:中止				
	効果額(千円)	不用額		内容・算出内訳	
	必要額				
	効果額				
[効果額] = 不要額(取組により不要となった(生み出された)額) - 必要額(取組に要した額)					

項目名称	No. 44	道路施設長寿命化の方策の推進								
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組							
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」							
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進							
所管課	建設部 道路維持課									
現状と課題	市が管理する道路施設であるトンネル5箇所、大型カルバート6箇所、横断歩道橋10橋、門型標識3基、土工構造物(法面)21箇所について、平成27年度末(2015年度末)に道路施設長寿命化修繕計画を策定。この計画に基づき、優先度・緊急度の高い施設から概ね10か年を目安に、詳細設計および修繕工事を行っていく。									
取組内容	1 道路施設長寿命化修繕計画策定事業の推進(点検の実施、修繕計画の策定) 2 道路施設修繕詳細設計の委託(優先度、緊急度が高い施設を対象とした修繕詳細設計業務委託) 3 道路施設修繕工事(前年度の修繕詳細設計に基づいた修繕工事の実施)									
達成目標	計画に沿った修繕工事の実施									
効果	予防保全型の補修により、維持管理に係るトータルコストが縮減できる									
指標					現状	中間年度	最終年度			
道路施設長寿命化の推進(老朽化した施設に対する修繕割合)					目標値	4%	13%	17%		
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)			
1	道路施設長寿命化修繕計画策定事業の推進	計画			→					
2	道路施設修繕詳細設計の委託	計画	→	→	→	→	→	→	→	
3	道路施設修繕工事の実施	計画	→							
4		計画								
5		計画								
備考										

各年度取組実績					
令和 4年度 (2022)	中間取組状況	1 予定している道路施設の定期点検は上半期にほぼ全ての発注を行い、点検の結果も一部を除いて概ね把握できている。 2 道路施設に関わる業務委託は上半期に発注し完了しているところである。 3 工事委託については、上半期に契約を締結し、年度内に完了する予定としている。			
	最終取組状況	1 予定通り横断歩道橋11橋の点検を実施した。 2 修繕が必要とされた横断歩道橋1橋の詳細設計を完了させた。 3 工事委託を行っている横断歩道橋1橋について、今年度分が完了し、引き続き来年度以降も実施していく。			
	達成状況評価	◎	評価理由及び次年度の取組予定	道路施設点検については予定通り完了した。修繕設計及び工事についても計画的に事業を推進することができた。 次年度以降の取組予定について、長寿命化修繕計画に基づき計画的に事業を進めていく。	
	△:準備、検討 ○:一部実施 ◎:実施完了 -:中止				
	効果額(千円)	不用額		内容・算出内訳	
	必要額				
	効果額				
[効果額] = 不要額(取組により不要となった(生み出された)額) - 必要額(取組に要した額)					

項目名称	No. 45	舗装長寿命化の方策の推進								
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組							
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」							
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進							
所管課	建設部 道路維持課									
現状と課題	<p>市が管理する道路は、総延長約2,600kmあり、アスファルト舗装が約2,400km、コンクリート舗装が約50kmとなっている。建設後数十年経過している路線が多く、今後も損傷が進行することが予想されるため、長期的な視点に基づき、計画的な修繕を行っていくことが急務となっている。</p> <p>平成25年度(2013年度)に路面性状調査*を実施し、平成29年(2017年)3月に「宮崎市舗装長寿命化修繕計画」を策定した。計画に基づき予防保全型の修繕へ転換を図る。</p>									
取組内容	<p>1 修繕設計の実施(修繕を行う路線に対して詳細な調査の実施、修繕の範囲、工法等を検討)</p> <p>2 修繕工事の実施(修繕設計に基づき、修繕工事を実施)</p>									
達成目標	計画に沿った修繕工事の実施									
効果	予防保全型の補修により、維持管理に係るトータルコストが縮減できる									
指標			現状	中間年度	最終年度					
舗装長寿命化の推進率(修繕を必要とする路線に対する着手割合)			目標値	19%	69%	100%				
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)			
1 修繕詳細設計	計画									
2 修繕工事	計画									
3	計画									
4	計画									
5	計画									
備考	* 路面の状態を調査し、路線ごとに損傷度合いの評価を実施した。									

各年度取組実績				
令和 4年度 (2022)	中間取組状況	1 上半期に1路線の調査・設計を実施した。 2 年度内に2路線の舗装修繕工事を実施・完成する予定である。		
	最終取組状況	予定していた2路線のうち、1路線について一部修繕工事を実施し、完了したところである。 予算の都合上実施することができなかった1路線については、次年度以降施工する。		
	達成状況評価	○	評価理由及び次年度の取組予定	概ね計画どおり実施できたが、予算の都合上1路線の工事着手にいたらなかった。 来年度以降において、着手済みである2路線の工事を継続して行う。
	△：準備、検討 ○：一部実施 ◎：実施完了 ー：中止			
	効果額 (千円)	不用額		内容・算出内訳
必要額				
	効果額			
[効果額] = 不要額(取組により不要となった(生み出された)額) - 必要額(取組に要した額)				

項目名称	No. 46	長寿命化計画に基づいた公園施設の計画的な改築・更新の実施										
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組									
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」									
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進									
所管課	都市整備部 公園緑地課											
現状と課題	<p>本市は、現在505箇所(731.18ha)*1の公園を管理しているが、供用開始からかなりの年数が経過した公園が多く、公園内施設も老朽化や現在の基準に合わないものが増えている。</p> <p>長寿命化計画の対象だけでも294公園で34,816施設と膨大であり、これらの公園施設*2を一度に補修・更新を行うことは不可能であるため、平成28年度(2016年度)に策定した「宮崎市公園施設長寿命化計画(計画期間:平成28年度(2016年度)～令和7年度(2025年度))」に基づき、施設毎の緊急度、優先度に応じた計画的、効率的な施設の補修・更新を実施する必要がある。</p>											
取組内容	1 「宮崎市公園施設長寿命化計画」(計画期間:平成28年度(2016年度)～令和7年度(2025年度))と日常的な点検や維持管理の結果に基づいた公園施設の補修・更新											
達成目標	「宮崎市公園施設長寿命化計画」に基づいた公園施設の計画的な補修・更新を実施する											
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が管理する公園施設の安全性や機能が確保される</li> <li>・効率的な維持管理が行われ、ライフサイクルコストの縮減が期待できる</li> </ul>											
指標			現状		中間年度		最終年度					
「宮崎市公園施設長寿命化計画」に基づいた補修・更新の実施率			目標値		2% (2016年度)		45%		67%			
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)		令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)	
1	長寿命化計画に基づく公園施設の補修・更新	計画	→									
2		計画										
3		計画										
4		計画										
5		計画										
備考	<p>*1 公園数・面積・施設数は、長寿命化計画策定時(平成28年(2016年)7月現在)。</p> <p>*2 公園施設 公園施設とは、都市公園法第2条第2項各号に掲げる施設を指す。</p>											

各年度取組実績				
令和 4年度 (2022)	中間取組状況	国庫補助事業費の予算配分が当初計画より低かった。配分された事業費の中で、長寿命化計画に基づき、施設毎の緊急度・優先度に応じた更新工事を行っている。上半期に予定していた工事については、計画通り発注を完了した。		
	最終取組状況	国庫補助事業費の予算配分が当初計画より低かったが、配分された事業費の中で、長寿命化計画に基づく、施設毎の緊急度・優先度に応じた更新工事を実施した。		
	達成状況評価	○	評価理由及び次年度の取組予定	長寿命化計画に基づき、計画的な更新工事を実施したことにより、公園施設の安全性・機能が確保された。地元との調整により、一部の工事が次年度へ繰越を行い更新工事を実施することとなった。次年度以降は、全ての公園を対象とした新たな長寿命化計画に基づき、計画的な更新工事を実施する。
	△：準備、検討 ○：一部実施 ◎：実施完了 -：中止			
	効果額 (千円)	不用額		内容・算出内訳
必要額				
効果額				
[効果額] = 不要額(取組により不要となった(生み出された)額) - 必要額(取組に要した額)				

項目名称	No. 47	学校施設における長寿命化計画の策定及び同計画に基づく維持管理の実施							
分類	大	1	健全な行財政運営の確保に向けた取組						
	中	2	投資の厳選による公共施設等の「総量の最適化」と「質の向上」						
	小	2	公共施設等の長寿命化の推進						
所管課	教育委員会 学校施設課								
現状と課題	<p>学校施設は、昭和40年代から50年代にかけての児童生徒急増期に校舎や屋内運動場等の建設を行ってきたため、建築後30年以上を経過した建物が全体棟数の7割を占めており、老朽化が進行している。</p> <p>老朽化が進行している施設を全て従来の改築の手法で対応していくのは財政面で相当な負担増になる。</p>								
取組内容	<p>定期点検や改修履歴による劣化、損傷等の老朽化の状況を把握し、優先順位付けや予算の平準化、トータルコストの縮減等を加えた「長寿命化計画*」を策定し、民間活力の導入検討と老朽化していく学校施設の機能維持に取り組む。</p> <p>1 長寿命化計画の策定 2 長寿命化計画に基づいた学校施設の機能維持、整備</p>								
達成目標	学校施設における長寿命化計画に基づく、施設の維持管理の実施								
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化が図られる</li> <li>・学校施設全体を機能維持していく整備計画として活用できる</li> </ul>								
指標			現状		中間年度		最終年度		
			目標値						
実施スケジュール			平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)		
1	長寿命化計画の策定	計画	→						
2	長寿命化計画に基づく施設の整備	計画		→					
3		計画							
4		計画							
5		計画							
備考	*長寿命化計画 基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す計画。								

各年度取組実績				
令和 4年度 (2022)	中間取組状況	平成30年度(2018年度)に策定した「宮崎市学校施設長寿命化計画」は、令和元年度(2019年度)から令和9年度(2027年度)までの9年間を本計画の期間と定めており、今年度、改定業務委託の発注を行い、本計画の進捗状況等を踏まえた中間見直しを行っている。		
	最終取組状況	本計画の進捗状況等を踏まえた中間見直しを行った。 また、本計画に基づき、学校施設の機能維持に必要な整備を計画的に行った。		
	達成状況評価	◎	評価理由及び次年度の取組予定	計画的に学校施設の整備改修を進めることができた。次年度以降も学校施設の整備改修を計画的に行っていく。
	△:準備、検討 ○:一部実施 ◎:実施完了 -:中止			
	効果額 (千円)	不用額		内容・算出内訳
必要額				
効果額				
[効果額] = 不要額(取組により不要となった(生み出された)額) - 必要額(取組に要した額)				